

「ホスピタリティ」とは何か—『広辞苑』と『大辞林』の場合—

佐々木隆

プロローグ

筆者が『広辞苑』や『大辞林』の言葉の定義に注目したものには『広辞苑』（第七版）に見るポップカルチャーの台頭」（『比較文化史研究』第19号、比較文化史学会、2018年3月）、『ドラえもんに負けたハローキティ？：『広辞苑』（第7版）に見るポップカルチャーの勢力拡大！』（武蔵野学院大学佐々木隆研究室、2018年9月）、「事典・辞典の『ハロウィーン』—『広辞苑』と『大辞林』—」（『むらおさ』第33号、2021年1月）、『書誌から見た「オタク」研究』（武蔵野学院大学佐々木隆研究室、2021年5月）では「4 オタクの定義」内での「（1）新村出編『広辞苑』の『オタク』／「（2）松村明編『大辞林』の『オタク』をはじめ、他の著作においても用語の定義の一般化を論じる際にも取り上げているものがある。

特に外来語の受容についてはそのカタカナ表記、本来の意味からの変容などもあり、複雑である。本稿では「ホスピタリティ」の表記と定義の変遷について取り上げたい。

1 『広辞苑』と『大辞林』

『広辞苑』について筆者は以前、次のように指摘ことがある。

一冊で国語辞典＋百科事典の内容を網羅している辞典・事典。日本のものと海外のものとの取り扱いが一部異なる。研究者等も言葉の定義でも使用する評価されたもの。^{（1）}

『広辞苑』については佐藤武義・前田富祺邊『日本語大辞典（上）』

(2014)には『大辞林』の項目はないが、『広辞苑』について次のように解説している。

単冊総合辞典としては最大の辞書で、現在の単冊大辞典出版の流れを作った。⁽²⁾

『大辞林』の定義はないが、『広辞苑』と比較すると『大辞林』は現代の新しい用語、ビジュアルの点で優れている点がある。『広辞苑』『大辞林』『大辞泉』の違いと特徴／最新版情報」(2017.11.21)でも次のような指摘がある。

【広辞苑】の特徴「国語も百科もこの一冊」

「広辞苑」の語釈の順序は、古い時代の言葉の解釈からはじまっています。よって、現代人には馴染みのない解釈が冒頭に登場するケースが少なくありません。

また、1955年(昭和30年)に発行された初版に掲載の言葉もほぼ削除せずそのまま残し、今では使われなくなった言葉や古語が多数収録されていることが特徴です。

ちなみに「広辞苑」のキャッチフレーズは「国語も百科もこの一冊」です。

【大辞林】の特徴「現代へのこだわり」

「広辞苑」を超える辞典を目指してつくられた「大辞林」の語釈の順序は、最近の言葉の解釈からはじまるスタイルをとっています。

今、最も使われている語句の解釈から語釈が掲載するという「現代」にこだわるコンセプトのもと、「広辞苑」に載らない文化人やサブカルチャーの人名も多数収録しています。⁽³⁾

外来語の受容及び変容を扱うには『広辞苑』と『大辞林』を取り上げることは一般への浸透を図る上のよい尺度となる。

2 「ホスピタリティ」の定義の変遷

日本語には「もてなし」という表現があるが、英語“hospital”が外来語として受容されている。「ホスピタリティ」を取り上げる際、“service”「サービス」との関連等が論じられることが頻繁にあるため、関連語として取り上げた。

『広辞苑』、第2版補訂版 1976年12月

サービス【service】①奉公。奉仕。給仕。接待。②物質的生産過程以外で機能する労働の汎称。用役。用務。③〔競技用語〕⇒サーブ。(p.852)

ホスピタリティ 見出し語なし

もてなし【持成】①とりなし。とりつくろい。たしなみ。②ふるまい。③取扱い。あしらい。④馳走。饗応。(p.2193)

『広辞苑』、第3版 1983年12月

サービス【service】①奉公。奉仕。給仕。接待。②物質的生産過程以外で機能する労働の汎称。用役。用務。③〔競技用語〕⇒サーブ。(p.924)

ホスピタリティ 見出し語なし

もてなし【持成】①とりなし。とりつくろい。たしなみ。②ふるまい。挙動。態度。③取扱い。あしらい。④馳走。饗応。(p.2376)

『広辞苑』、第4版 1991年11月

サービス【service】①奉公。②給仕。接待。③物質的生産過程以外で機能する労働。用役。用務。③〔競技用語〕⇒サーブ。
(p.992)

ホスピタリティ 見出し語なし

もてなし【持成】①とりなし。とりつくろい。たしなみ。②ふるまい。挙動。態度。③取扱い。あしらい。待遇。④馳走。饗応。(p.2543)

『広辞苑』、第5版 1998年11月

サービス【service】①奉公。②給仕。接待。③商店で値引きしたり、客の便宜を図ったりすること。④物質的生産過程以外で機能する労働。用役。用務。③〔競技用語〕⇒サーブ。(p.1029)

ホスピタリティ 見出し語なし

もてなし【持て成し】①とりなし。とりつくろい。たしなみ。②ふるまい。挙動。態度。③取扱い。あしらい。待遇。④馳走。饗応。(p.2648)

『広辞苑』、第6版 2008年1月

サービス【service】①奉公。②給仕。接待。③商店で値引きしたり、客の便宜を図ったりすること。④物質的生産過程以外で機能する労働。用役。用務。③〔競技用語〕サーブに同じ。
(p.1062)

ホスピタリティー【hospitality】客を親切にもてなすこと。また、もてなす気持。(p.2588)

もてなし【持て成し】①とりなし。とりつくろい。たしなみ。②ふるまい。挙動。態度。③取扱い。あしらい。待遇。④馳走。饗応。(p.2648)

『広辞苑』、第7版 2018年1月

サービス【service】①奉公。他人のために尽力すること。②給仕。接待。③商店で値引きしたり、客の便宜を図ったりすること。④物質的生産過程以外で機能する労働。用役。③（競技用語）サーブに同じ。（p.1130）

ホスピタリティー【hospitality】客を親切にもてなすこと。また、もてなす気持。（p.2699）

もてなし【持て成し】①とりなし。とりつくろい。たしなみ。

②ふるまい。挙動。態度。③取扱い。あしらい。待遇。④馳走。饗応。（p.2913）

.....

『大辞林』、初版、1990年4月

サービス【service】①相手のために気を配って尽くすこと。②品物を売るとき、値引きをしたり景品をつけたりして、客の便宜を図ること。③サーブ①に同じ。④《経》物質的財貨を生産する労働以外の労働。具体的には運輸・通信・教育・福祉などにかかわる労働で、第三次産業に属する。用役。役務。（p.936）

ホスピタリティー【hospitality】①訪問者を丁重にもてなすこと。②否定住の宗教者や異端からやってきた特殊な職業人を神の化身のごとく見なして歓待する風習。異人歓待。外者歓待。（p.2230）

もてなし【持て成し】①客に対する扱い。待遇。②客に出す御馳走。接待。③人や物事に対する振る舞い方。（p.2402）

『大辞林』、第2版、1999年10月

サービス【service】①相手のために気を配って尽くすこと。②品物を売るとき、客の便宜を図ったり値引きや景品をつけたりすること。③サーブ①に同じ。④《経》物質的財貨を生産

する労働以外の労働。具体的には運輸・通信・教育などにかかわる労働で、第三次産業に属する。用役。役務。(p.981)
ホスピタリティー【hopitality】訪問者を丁重にもてなすこと。

(p.2379)

もてなし【持て成し】①客に対する扱い。待遇。②客に出す御馳走。接待。③人や物事に対する振る舞い方。態度。(p.2558)

『大辞林』、第3版、2006年10月

サービス【service】①相手のために気を配って尽くすこと。②品物を売るとき、値引きをしたり景品をつけたりして、客の便宜を図ること。③サーブ①に同じ。④《経》物質的財貨を生産する労働以外の労働。具体的には運輸・通信・教育・福祉などにかかわる労働で、第三次産業に属する。用役。役務。

⑤英国国教会における礼拝およびそのための曲 (p.971)

ホスピタリティー【hopitality】丁重なもてなし。また、もてなしの心。(p.2519)

もてなし【持て成し】①客に対する扱い。待遇。②客に出す御馳走。接待。③人や物事に対する振る舞い方。(p.2722)

『大辞林』、第4版、2019年9月

サービス【service】①相手のために気を配って尽くすこと。②品物を売るとき、値引きをしたり景品をつけたりして、客の便宜を図ること。③レストランなどで、客に心配して、もてなすこと。給仕。サーブ。④サーブ①に同じ。⑤《経》物質的財貨を生産する労働以外の労働。具体的には運輸・通信・教育・福祉などにかかわる労働で、第三次産業に属する。用役。役務。⑥⑤のうち顧客に提供される個別具体的な内容。

⑦英国国教会における礼拝およびそのための曲 (p.1054)

ホスピタリティー【hospitality】丁重なもてなし。また、もてなしの心。(p.2519)

もてなし【持て成し】①客に対する扱い。待遇。②客に出す御馳走。接待。③人や物事に対する振る舞い方。(p.2722)

『広辞苑』で「ホスピタリティ」の見出し語として登場するのは第6版(2008年1月)からである。『広辞苑』での定義からは次のようなことがわかる。

- ① 表記は「ホスピタリティー」と長音記号が含まれている。
- ② 第6版及び第7版の定義は同じ。「客を親切にもてなすこと。また、もてなす気持。」

『広辞林』では「ホスピタリティ」は初版(1990年4月)より見出し語として登場しているが、『広辞林』の場合に大きな定義の変化、変容がみられる。

- ① 初版では2番目の定義として「否定住の宗教者や異端からやってきた特殊な職業人を神の化身のごとく見なして歓待する風習。異人歓待。外者歓待。」が示されているが、第2版以降は削除されている。
- ② 第2版の定義「訪問者を丁重にもてなすこと。」の「訪問者」が第3版以降削除され、「丁重なもてなし。また、もてなしの心。」となっている。

3 定義の変遷から見えるもの

『広辞苑』と『広辞林』の「ホスピタリティ」の定義を見ると以

下のようなことが見えてくる。

- ① 『広辞苑』（第5版、1998年11月）には見出し語には掲載されなかったが、『大辞林』（初版、1990年4月）では見出し語で取り上げられていたことを考えると、1980年代には「ホスピタリティ」という言葉や概念が日本に受容されていたようだ。
- ② 表記として「ホスピタリティー」と長音表記になっている。英語では“hospitality”、発音記号としても[həspətəliːti]と長音記号[:]が含まれていないも関わらず、日本語では「一」長音記号が入っている。英和辞典などでは「ホスピタリティ」となっているが、他の日本語の辞書では『広辞苑』や『大辞林』の影響を受けてか、「ホスピタリティー」となっている。
- ③ “hospitality”の語源の意味を反映させているのは『大辞林』の初版（1990年4月）に「否定住の宗教者や異端からやってきた特殊な職業人を神の化身のごとく見なして歓待する風習。異人歓待。外者歓待。」との記載があったが、第2版以降はすべて削除されている。
- ④ 最新の『広辞苑』（2018年1月）と『大辞林』（2019年9月）では「客を親切にもてなすこと。また、もてなす気持。」「丁重なもてなし。また、もてなしの心。」という定義になっており、共通することは、単なる「もてなし」ではなく、「親切的な」あるいは「丁重な」という形容詞がついている。
- ⑤ もてなす対象が『広辞苑』では「客」とあり、『大辞林』には対象者が特定されていない。『大辞林』（初版）では「異人歓待。外者歓待。」の意味があり、これが第2版以降では削除されているが、本来は家族のようないわゆる身内に対してのものではないということだろう。『広辞苑』ではこの部分が「客」という表現で残されていることで外来者を対象にしたものであることを

担保している。

エピローグ

今回のリサーチでは『広辞苑』と『大辞林』に絞って行った。

“hospital”あるいは“hospital”の語源などを調べれば、巡礼者、旅行者、外来者をもてなすこと（場所）などとある。⁽⁴⁾ また、上記で取り上げた5点の他にも日本には「もてなし」という言葉があり、「ホスピタリティ」とどう違うのか、類似する用語として「サービス」などもあり、どう使い分けているかなども今後の課題である。

今回のリサーチで『広辞苑』と『大辞林』のような国語系の辞典では「ホスピタリティー」と長音記号を用いている表現が主流であるが、英和系の辞典では「ホスピタリティ」あるいは訳語として「(客や外来者に対する) 手厚いもてなし」となっていることから、表記方法や定義に変容が見られた。

今後はリサーチ範囲を広げ、5点の指摘を中心に「ホスピタリティ」とは何かを考察したい。

注

- (1) 佐々木隆『『広辞苑』(第七版)に見るポップカルチャーの台頭』(『比較文化史研究』第19号、比較文化史学会、2018年3月)、p.46.
- (2) 佐藤武義・前田富祺邊『日本語大辞典(上)』(朝倉書店、2014年11月)、p.755.
- (3) 『『広辞苑』『大辞林』『大辞泉』の違いと特徴／最新版情報』(2017.11.21) (<https://99bako.com/2217.html>)(2021年4月18日アクセス)

(4) *The Oxford English Dictionary* (Volume V) (Oxford University Press, 1970. reprint), p.406.

【キーワード】 ホスピタリティ、サービス、もてなし、『広辞苑』、
『大辞林』